

氏名 (KARASAKI Takuya)

上級研究員
博士 (学術)
1991 千葉大学大学院園芸学研究科 修了
農林水産省 農業工学研究所
1995 農林水産省 農業研究センター
2001 農研機構 中央農業総合研究センター
2004 農研機構 農村工学研究所
2019 農研機構本部 企画戦略本部
2021 農研機構 農村工学研究部門資源利用研究領域



店頭でアンケート調査

研究者の横顔

<はじめに>

2013年7月(第40号)以来、2回目の登場となりました。

昨年の2021年度から、農山漁村の再生可能エネルギーをテーマに、新たな研究課題に取り組み始めました。私が所属する資源利用研究領域は、2021年に地産地消型エネルギーをテーマに新たに組織されました。農村地域の資源や再生可能エネルギーの活用に関する技術開発を目指し、施設園芸、有機性バイオマス、小水力、農業経営などの多様な分野の研究者からなる研究グループです。

私自身は、これまで地域の合意形成や地域活性化に関わる社会科学的な視点の研究に携わってきました。現在、農山漁村のエネルギー需給に関する現地調査を行っています。全国の様々な地域の農業関係者や事業者、自治体の皆様に調査協力いただいております。この場を借りて、心より御礼申し上げます。皆様のまち、むらにも出没するかもしれませんが、何卒よろしくお願い申し上げます。

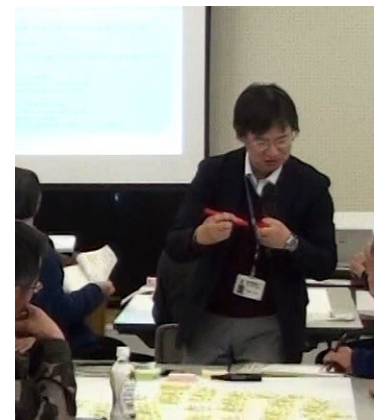
<以前の研究では>

過年度の研究成果ですが、CSA (Community Supported Agriculture) について研究していました。CSAは、日本語では「地域支援型農業」と訳されることが多く、生産者と消費者が連携した農業モデルとして注目されています。現在でも、CSAに関心をもつ研究者や実践者らと、CSA研究会(代表:波多野豪三重大学名誉教授)を開催し、情報交換を行っています。現在の主たる研究テーマではありませんが、お問い合わせには対応しております。また、農研機構のHPには「CSA(地域支援型農業)導入の手引き」を公開しております(下記URL)。

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/063139.html

<農業と環境>

大学時代は、造園学、緑地学を専攻していて、農村の環境、景観には関心を持っています。かつて、「環境や景観はカネにならない」という言葉を農村の現場で耳にすることもありました。しかし、SDGsや脱炭素社会、観光産業の成長などを背景に、農村の環境、景観をめぐる情勢は大きく変わりつつあります。農業と環境、景観は不可分な関係にあります。農村工学は、その地域にとって望ましい調和点を見いだす学問でもあると感じています。



地域の合意形成(計画策定など)に住民参加型のワークショップ